学校法人 青山学院

2017年度 事業計画書

Aoyama Gakuin since 1874

目次

はじめに・AOYAMA VISION 構成図 …… 2
AOYAMA VISION 達成のための重点施策の概要 …… 3

学院および各設置学校の事業計画
Ⅰ. AOYAMA VISION 達成のためのアクション …… 4
1. 7 つのアクション …… 4
ACTION 1　サービス・ラーニング …… 4
ACTION 2　SEED+青山グローバルスタンダード …… 6
ACTION 3　5 大陸をつなげる国際教育 …… 6
ACTION 4　キャリア教育・海外インターンシップ …… 9
ACTION 5　Aoyama Global Passport System（AGPS） …… 9
ACTION 6　IAMSCU リサーチ大学コンソーシアム …… 10
ACTION 7　総合大学院と独創的な研究拠点構築 …… 10
2. その他のアクション …… 10
（1）教育力の向上 …… 10
（2）スチューデント支援 …… 11

Ⅱ. 青山学院グローバルアカデミックタウン …… 11
1. 地域・社会との連携 …… 11
2. 各設置学校等の連携 …… 12

Ⅲ. 学院を支える基盤整備 …… 13
1. キャンパス再開発 …… 13
2. 財政基盤の強化 …… 14
3. 組織・運営体制の充実 …… 14

Ⅳ. その他 …… 16

はじめに

青山学院創立 140 周年を機に、10 年後の更なる飛躍に向けて策定した「AOYAMA VISION」は、今年度で 3 年目を迎えます。「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」を目指して、各設置学校が AOYAMA VISION に掲げた 3 つのテーマと 7 つの ACTION を中心に取り組みを進める中、教職協働のプロジェクトや、課題を共有し自ら解決策を見出すための研修会等の実施を積み重ねることで、教職員の一人ひとりに青山学院の未来を担うサーバント・リーダーであるという意識が根付いてきているのは、大きな力と言えます。

2017 年度事業計画書は、青山学院が教育機関としての使命を果たし、AOYAMA VISION を実現していくために、各設置学校や各部署が策定した 2017 年度事業計画の概要を記したものです。すべての取り組みを網羅しているものではありませんが、具体的内容をご確認ください。

AOYAMA VISION 達成のための重点施策の概要

ACTION 1　サービス・ラーニング

サーバント・リーダーの育成には、他者に仕える精神を持ち、それを実践的に学ぶサービス・ラーニング（奉仕活動等を通じた主体的学習）が欠かせません。青山学院では、他者に仕える行い（サービス）の実践として、各設置学校で行われているボランティア活動、その他の多様な活動を「学び」として系統立て、全学院的にサービス・ラーニングを展開します。

ACTION 2　SEED+青山グローバルスタンダード

初等部から高等部の 12 年間で実現した英語一貫教育を大学につなぎ、青山学院大学独自の教養教育「青山スタンダード」を次世代型の「青山グローバルスタンダード」に進化させます。青山スタンダード科目、学部専門科目に英語講義科目を増やし、英語のみで卒業できる体制も整えます。

ACTION 3　5 大陸をつなげる国際教育

「世界の中の日本の学校」として創立以来引き継いできた国際教育を更に発展させ、グローバル一貫教育を推進します。大学では、IAMSCU（国際メソジスト関係学校・大学連盟）ネットワーク等を通じ、世界 5 大陸をむすぶ新たな国際高等教育連携を実現します。

ACTION 4　キャリア教育・海外インターンシップ

自分を知り、自分らしさを発見し、社会につながる機会を提供することで、一人ひとりの可能性を広げます。各学校で成長段階に合わせた職業観・キャリア教育を行い、大学では海外インターンシップを展開することによって世界を舞台に活躍する人材を育成します。

ACTION 5　Aoyama Global Passport System（AGPS）

21 世紀には学力だけではなく、国際的活動やサービス・ラーニング等の様々な学び、経験を通じた人間教育が問われます。青山学院では、豊かな人間教育を進めてきた経験と蓄積を活かし、成績だけではない多面的な能力・学びをオール青山に共通する「成長ポートフォリオ」として記録し、グローバルなサーバント・リーダーを育てるための取り組みを進めます。

ACTION 6　IAMSCU リサーチ大学コンソーシアム

グローバルスタンダード教育と卓越した研究を推進するために、IAMSCU リサーチ大学のコンソーシアムを構築するとともに、そのハブ校として国際共同研究や交換留学、faculty exchange 等を積極的に推進し、アジアの高等教育リーダーを目指します。

ACTION 7　総合大学院と独創的な研究拠点構築

急速かつ劇的に高度化・複雑化しつつある時代の変化に対応できる人材ニーズに応えるため、学部に基礎を置く大学院と専門職大学院の総合化を実現し、研究体制、次世代研究者養成体制を整備します。

青山学院グローバルアカデミックタウン

7 つのアクションを通じ、青山と相模原の 2 つのキャンパスの特性を活かし、地域と密接に交流しながら、世代をつなぎ、人と社会に貢献する研究教育を世界に向けて発信するベース＝「グローバルアカデミックタウン」を創造します。

飛躍する学院を支える基盤整備

AOYAMA VISION 達成に向けた諸事業を推進し、質の高い教育・研究活動を永続的に行うために、その基盤となる「施設設備計画（キャンパス再開発 10 年計画の策定）」、「財務基盤の強化」、「組織・運営体制の充実」に取り組みます。

学院および各設置学校の事業計画

Ⅰ．AOYAMA VISION 達成のためのアクション

1. 7 つのアクション

ACTION 1　サービス・ラーニング

サービス・ラーニングの推進【学院】

2015、2016 年度と教職協働のプロジェクトにより学院におけるボランティア活動およびサービス・ラーニングの取り組みの現状把握と課題の検証が行われました。特に、初等部から大学まで各設置学校が実施しているフィリピン訪問プログラム（スポンサーとして教育支援をしている現地の子どもたちと交流するプログラム）について、一貫教育としての連動性を持たせた本学特有の取り組みとして位置づけ、設置学校間の連携を強化していくことが提案されており、今後その実現を図る予定です。また、他のプログラムも含め、サービス・ラーニングを学院の一貫した教育プログラムとして展開していくためには、支援体制の構築が欠かせません。今後は、サービス・ラーニング・センター開設を目標に、全学的な検討委員会を設置して学院全体で検討を進めていきます。

パラリンピック・パラスポーツ協力の取り組み【学院】

パラリンピック・パラスポーツ推進のための取り組みを学院全体で展開していきます。2016年度は初等部において、日本財団パラリンピックサポートセンター主催「あすチャレ！スクール」（パラアスリートと共にスポーツを体験し、リアルな声を聴くことで新たな学びにつなげようという体験型授業）を全国で最初に開催し、5、6年生が実際の競技用車いすを使ったゲーム体験やパラリンピアンの講演を聴きました。また大学では、パラスポーツ選手や支援者らの講演を含む「誰もが暮らしやすい社会の実現」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。このような体験や講演を通じて得た「気づき・学び」が、「他者を敬い違いを受入れる心」を持つサーバント・リーダーとしての成長につながる教育を行っていきます。

大学におけるサービス・ラーニングの試行準備【大学】

アクティブ・ラーニングの一手法としてサービス・ラーニングの活用を図り、教育の質的向上を目指しています。2017 年度は、青山スタンダード（全学共通教養教育）科目におけるパイロットプログラムの実施に向けて、大学内関係部署が連携しカリキュラム調整やプログラムを担う教職員の育成等を実施していきます。

ボランティアセンター広報活動イベント実施およびサービス・ラーニング接続のための調査研究【大学】

学生へ多様なボランティアの機会を提供し、社会と学院をつなげる中間支援組織となるボランティアセンターを 2016 年 10 月に開設しました。東日本大震災を機に、学生が主体となって設立したボランティアの企画・運営を行う団体が、約 5 年にわたって実施してきた被災地・海外・地域支援およびボランティアコーディネーター育成を継続するとともに、その活動を学内外に広く発信するシンポジウム、イベント等の活動も行っていきます。また、サービス・ラーニングへの接続を視野に、関連する研究会への参加やサービス活動候補先へのヒアリング等調査を進めます。

東京オリンピック・パラリンピックの支援に関する学生ボランティア活用の検討、関連イベント実施【大学】

大学では、グローバル化ポリシーの 5 つの柱の一つである「地域貢献」の一環として、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協定にもとづく取り組みを実施しており、オリンピック・パラリンピック教育の広がりを目指した講座プログラムの実施や大学連携イベントの共同開催に向けた取り組み等、組織委員会との連携を推進しています。2016 年 9 月からは、渋谷区、株式会社日立製作所と協働して大学の記念館（体育館）をプロバスケットボールチームの「日立サンロッカーズ渋谷」のホームアリーナとして提供開始し、公式試合や渋谷区の小中学生を対象としたバスケットボール教室等が開催され、産官学の新たな取り組みとしてスポーツ庁からも注目されています。今後も、東京オリンピック・パラリンピックに向け、関係各所と連携・協力して継続して支援を行っていきます。

【各設置学校におけるサービス・ラーニングに係る継続的な取り組み例】

学院	●幼稚園から大学まで各教育課程を横断するフィリピン訪問プログラム
大学	●地方自治体との各種協定にもとづくボランティア活動、地域振興支援 ●ボランティアセンターによる各種活動（渋谷地域における清掃活動・福祉支援、フィリピン等における国際協力、東北地方における復興支援活動） ●サークル、ゼミ単位での国内外における各種貢献活動 ●青山スタンダード科目「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ」
女子短期大学	●宮古市、熊本における児童・生徒に対する教育支援活動等被災地支援ボランティア活動　●現代教養コア科目「共生社会実習」
高等部	●東日本大震災の被災地の学校との交流　●横浜寿町での炊き出し等支援 ●知的障害者支援施設「えびす青年教室」への訪問、交流
中等部	●養護老人ホームでの清掃奉仕　●震災被災者支援募金活動 ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通しての里子支援
初等部	●滋賀県にある止揚学園への短期留学 ●社会福祉法人鎌倉薫風学園ラファエル会・日本聾話学校への訪問 ●日本キリスト教海外医療協力会支援プログラム（使用済み切手の回収） ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通しての里子支援
幼稚園	●チャイルド・ファンド・ジャパンを通しての里子支援

ACTION 2　SEED+青山グローバルスタンダード

英語による授業の拡充【大学】

将来世界で活躍できる学生の育成と、留学生の受入・派遣等留学の促進を目標に英語による授業の拡充を進めています。2017 年度より、英米文学科で新たに導入する「PESE（Program for Extensive Studies in English）」は、語学の授業だけでなく専門科目の大半も英語のみで授業が行われ、卒業要件単位のうち 72 単位以上に当たる科目を英語で修得すると、修了が認められるプログラムです。また同学科では、「通訳・翻訳プログラム」もスタートさせ、国際舞台における活躍を目指す学生の学びの場を増やしています。また、全学共通の教養教育システムである青山スタンダード科目では、2017 年度より青山・相模原キャンパスにおいて「キリスト教概論」で英語授業が開講します。今後も青山スタンダード科目の各領域と各学部の専門教育科目で、英語授業開講に向けた検討を進めていきます。

ACTION 3　5 大陸をつなげる国際教育

柔軟な学期編成の具体化【大学】

2018 年度の運用開始を目指し、2 学期制を基本とした学事暦やカリキュラムの検討等、各学部との調整を行います。

国際学生寮によるグローバル化環境改善事業【大学】

2017 年 4 月、留学生と本学の日本人学生との混住型国際学生寮を、武蔵小杉と相模原に開設します。日常生活のサポートのみならず、国際交流イベントの開催等コミュニケーションの場を提供し、学生等が共同生活を通して相互理解を深めていけるよう支援し、本学のグローバル人材育成の要としてその機能を十分に活かした運用を目指します。

言語表現能力に秀でた学生の育成【大学】

グローバル化ポリシー「Multi-lingual Education」の観点から、日本語での専門教育・外国語教育のあり方の再検討を行っています。言語教育の柱となるセンター組織の立ち上げを含めた体制見直しを行い、2017 年度は特に日本語教育の機能に焦点を絞った検討を行っていきます。

国際センター設置【大学】

現国際交流センター（留学支援、協定校締結、教員・研究員の招聘等を行う）に IAMSCU ネットワークや経営学研究科 WCO プログラム等の高度教育交流・研究交流を推進する機能、ならびに国際広報を展開する機能を付加した国際センター（International Center）を設置します。その基盤整備として、高度な外国語スキルを持つスタッフの常駐化を行います。

アカデミックライティングセンター設置【大学】

青山・相模原両キャンパスに、アカデミックライティングセンターを開設し、アカデミックライティングに係る指導、教育を実施することにより、学生のコミュニケーション能力、論理的思考および日本語、英語その他の言語によるアカデミックライティング能力の育成、向上を支援し、アカデミックマナーおよびアカデミックリテラシーを有する学生の育成への貢献が期待されます。

理工学部・研究科学生海外短期インターン【大学】

理工学部・研究科の学生を欧州トップクラスのサマースクール（理工学国際プログラム）へ派遣し、最先端の研究に触れる機会を設けるとともに、海外留学生との交流を通してグローバル感覚を身につけることを目的とした取り組みです。2017 年度は、本学の協定校でもあるジャンモネ大学（フランス）が開催する「European Computer Science Summer School」に 6 名程が参加する予定です。フランスへの留学をさらに進め、本学の国際的研究ネットワークの強化・拡大にもつなげていきます。

派遣留学生、私費留学生への奨学金の充実【大学】

本学から派遣する留学生のうち、世界トップレベルの大学へ留学する学生に対して、既存の留学支援奨学金に追加の給付を行います。また、本学に受け入れる私費留学生に対する支援奨学金を増額します。奨学金の充実により、派遣・受入留学生が増え、多文化の交流が図られることが期待されます。

文部科学省スーパーグローバルハイスクールの取り組み：高等部教育全体の中での位置づけの確定と「経験のサイクル化」の取り組み【高等部】

スーパーグローバルハイスクールに関連した各種取り組み*1 を、グローバルウイーク等で全校生徒が共有し、平和共生ログブック*2 および平和共生論文を通して自身の学びに取り組む「経験のサイクル化」を全校で実施し、さらに全校生徒が学ぶカリキュラム内における関係性を明確にすることで、新しい「多文化共生」の時代に向けてのふさわしい教育を行っていきます。2017 年度も、各種取り組みを実施していくとともに、年度末には生徒へアンケートを実施し、グローバルな課題への取り組み姿勢や意識向上がどれだけ図られたかを調査します。

＊1）海外提携校（英国イートン校、リーススクール、イタリア・レニャーニ校）との交流、多文化共生キャンプとアジア地域の留学生との交流、都内アテンドプログラム・フィリピン訪問プログラムの実施、フェアトレードへの取り組み、東北の被災地の学校との交流等

＊2）様々な教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノート。2～3 年次にかけ、一つのテーマを決めて研究論文を書くよう構成されている。

『初等部さんびか』改訂版編纂【初等部】

青山学院の教育の中核にあり、毎日実施される礼拝のさらなる充実を図るため、20 年以上使用してきた『初等部さんびか』の改訂を行います。日本語だけでなく、英語、ドイツ語、フランス語、ラテン語、中国語、韓国語、タガログ語（フィリピン訪問プログラムと連動）等多言語の歌詞を掲載することにより、これらの歌唱指導や背景解説を通して児童の国際理解の芽を育みます。

日常の保育の中で海外の文化や異言語に触れる経験を増やす【幼稚園】

日常の保育をはじめ「お誕生日会」や「こどもフェスタ」等において、園児が海外の文化を知る機会を増やします。また、昨年度に引き続き、ニューイングランド大学（オーストラリア）の学生たちの来校に合わせて、園児との交流の時間を設ける予定です。事前にあいさつ等の簡単な英会話を習得させますが、通訳を介さずにコミュニケーションを取り合う経験を大事にします。さらに、海外のみならず、自国の文化にも興味を持つきっかけとして「わらべうた」を保育の様々な場面で取り入れます。

【各設置学校における国際交流・国際教育に係る継続的な取り組み例】

大学	●留学可能な 95 校の協定校への留学（2017 年 2 月現在） ●MISEN Program*3 ●ACUCA SMS Program*4 ●JSAF スタディアブロードプログラム*5 ●夏期・春期期間の海外語学・文化研修 ●日本人学生と留学生との交流を目的とした外国人留学生チューター制度 ●秋期留学生文化研修 ●国際交流の会
女子短期大学	●米国の 3 つの姉妹校との交流 ●夏期・春期休暇期間の短期留学 ●キリスト教学実践で行っているアジア諸国へのスタディ・ツアー実習 ●共生社会実習
高等部	●イギリス・リース校、イートン校、イタリア・レニャーニ校との交流 ●カナダ・ホームステイ・プログラム
中等部	●オーストラリア・ホームステイ・プログラム ●梨花女子大学付属中学校との交流プログラム
初等部	●オーストラリア･ヌッサーのグッドシェパード校およびセントアンドリュース・ルーザラン校とのホームステイプログラム

＊3）本学が加盟する MISEN 加盟校への留学プログラム
MISEN：Methodist International Student Exchange Network（メソジスト国際交換留学ネットワーク）

＊4）本学が加盟する ACUCA 加盟校への Student Mobility Scheme による留学プログラム
ACUCA：The Association of Christian Universities and Colleges in Asia（アジア・キリスト教大学協会）

＊5）本学が日本スタディ・アブロード・ファンデーション（JSAF）と協定を結び、JSAF が協定を結んでいる海外の大学の一部を認定校として承認し、学生を派遣するプログラム

ACTION 4　キャリア教育・海外インターンシップ

海外インターンシップの拡大と海外派遣プログラムの多様化推進【大学】

海外インターンシップの充実を図り、社会（企業）から求められている力（主体性、実行力、課題発見力、ストレスコントロール力、英語力等）を身につける機会を多くの学生に提供していきます。2017 年度は、アメリカ、オーストラリア、シンガポール 3 か国 7 都市への派遣を約 70 名規模で実施することを予定しています。また、本事業を速やかにキャリア支援部門に移管させることを前提に、国内受入れプログラム、海外派遣プログラムのための専従スタッフ配置等、支援体制を整備していきます。

【各設置学校におけるキャリア教育・キャリア支援に係る継続的な取り組み例】

大学	●主要私立大学の中でトップクラスの就職率と高い「進路・就職先満足度」を支える豊富な支援行事 ●手厚い個別相談 ●独自の就職情報提供 ●教員・スタッフ・卒業生が一体となったバックアップ体制等 ●学部における正課内インターンシップの実施 青山スタンダード科目「インターンシップⅠ～Ⅲ」 （法、経営、国際政治経済、理工、社会情報学部は「インターンシップ」） ●大学院及び専門職大学院における正課内インターンシップの実施 （理工学、社会情報学、国際マネジメント、法務、会計プロフェッション研究科は「インターンシップ」「エクスターンシップ」）
女子短期大学	●少人数ゼミやライフ・キャリア・デザイン科目をカリキュラムに配置 ●メンター教員・学生課職員・常駐キャリアカウンセラーなど教職員一丸となった支援体制等
高等部	●大学・短大との連携による学問入門講座の実施
中等部	●中等部卒業生を中心とした、各界で活躍する方を招いての講演会の実施
初等部	●初等部の同窓会である「くすのき会」が様々な職種の卒業生の方を招いて、5・6 年生を対象に「ようこそセンパイ」を実施

ACTION 5　Aoyama Global Passport System（AGPS）

Aoyama Global Passport System の構築【学院・各設置学校】

幼児教育から高等教育までの系統的な学びの中で、在学生一人ひとりについて、現状の正課の成績等記録の他に、サービス・ラーニングや留学を含む正課外の学びを記録するシステムの構築を目指します。2016 年度の教職協働プロジェクトにおいては、現状の生活記録の内容や記録方法について見直しを行い、不足項目や青山学院らしい項目追加について検討がなされました。この結果を踏まえて、現行の教育研究システムを活用した e-ポートフォリオのトライアル実施に向けた調整を行うとともに、今後の本格導入に向けた課題やスケジュール調整等も行っていきます。

ACTION 6　**IAMSCU リサーチ大学コンソーシアム**

2017 年度も IAMSCU*6 を通じた国際教育・研究の推進について取り組み、メソジスト関係学校の広範囲にわたる国際ネットワークを活用した教育・研究の発展に貢献していきます。2015、2016 年度と連続して本学で開催している IAMSCU リサーチ大学コンソーシアムによる国際研究シンポジウムを 2017 年度も開催予定です。

＊6）IAMSCU：International Association of Methodist Schools, Colleges, and Universities
（国際メソジスト関係学校・大学連盟）

ACTION 7　**総合大学院と独創的な研究拠点構築**

全学的な社会人教育を目指した大学院制度の検討【大学】

2017 年度は研究科等において、社会人教育の拡充を目的とする具体的なプログラム等の展開を検討していきます。

2. その他のアクション

（1） 教育力の向上

①教育の質と学習意欲の向上につながる制度・体制の整備

キャンパスの内外を横断する学修空間の充実とそれにともなう教育・学修の質向上に向けての記録蓄積と効果測定のための調査【学院・大学】

教室の内外、キャンパスの内外を問わず、自発的学修を促す効果的な学修環境像（教室やラーニングコモンズ、学修支援システム、学術メディア等）の構築を効率的かつ合理的に進めることを目的として、2017 年度は新教育研究システム稼働にともなう各種利用データの蓄積と、その記録から学修のありかたの特徴を抽出し、サービスの改善に活かします。

②ICT を活用した教育の充実化

電子黒板・タブレット端末等 ICT 機器導入【高等部】

電子黒板・タブレット端末等 ICT 機器を導入し、生徒の自己教育力、表現力、創造力の育成と、個々の学習ニーズへ対応します。2017 年度は高等部内の無線 LAN 設備を整備し、タブレット端末を用いた授業を増やしていきます。教員研修会において活用事例を共有するとともに、教員・生徒を対象としたアンケートを実施して改善点や要望を把握し、ICT 機器を用いたアクティブ・ラーニングの効果向上につなげます。

教科型教室環境における新しい教材、教育ツールの導入【中等部】

中等部では 2017 年 4 月より「教科センター型教室」を採用した新校舎における授業を開始しています。各教科が専用のゾーンを持ち、専用の教室、教科の発表や作業のためのメディアスペース、教科の先生の研究室をそれぞれ隣接させることにより、従来型の教室に比べ、より充実した教科教育が可能になります。生徒たちは、教科の学習方法に合わせた教育環境で学びを深めるとともに、ホームルームで先生を待つ授業から、専用教室に「向かう」授業へ転換し、積極的・自主的に学ぶ姿勢を身につけていきます。

(2) スチューデント支援

大学では 2018 年度推薦入試（2017 年秋実施予定）として新たに「児童養護施設推薦入試（仮称)」を導入します。社会福祉法人全国社会福祉協議会全国児童養護施設協議会に加盟する児童養護施設に入所している生徒のうち、本学への進学を希望する者を正規学生として受入れ、高等教育の機会を提供するものです。入学検定料および入学金を免除とし、在学中も原則として最短修業年限での学費等を免除するなどの支援が行われます。また、新設した事務組織「スポーツ支援課」では、体育会各部の活動支援（練習環境の整備を含めた競技力向上、強化策の推進・教育支援体制の整備等）や青山学院大学スポーツ振興ホームページ「青山スポーツ」サイトの充実をはじめとした、大学スポーツ活動情報の内外への発信、応援活動の推進、地域とのスポーツを通した交流活動等に取り組んでいます。

Ⅱ. 青山学院グローバルアカデミックタウン

1. 地域・社会との連携

チャットルーム改革・校友及び地域への貢献推進【大学】

青山学院グローバルアカデミックタウンの中心的役割を担うチャットルームは、本学の児童・生徒・学生に限らず、職員や校友、地域住民等の幅広い層を対象に、外国語を通じた国際交流・異文化交流の機会を提供しています。2017 年度はその事業拡大のため、引き続き青山キャンパスにおいて英語ネイティブ・スピーカーを常駐化、相模原キャンパスのチャットルームスタッフも常勤化させ、授業期間以外でもビデオチャットを活用した被災地の方々とのセッションや校友、渋谷区民、相模原市民を対象としたセッション等を開講し、多様な利用者の受入、機能の拡大を図ります。

スポーツキャリアを活かし今後の社会に貢献する人材を育成する研究・教育プログラムの開発【大学】

2015 年度より社会情報学部の教育・研究プロジェクトとして相模原キャンパスで実施してきた「スポーツキャリアプログラム」を、青山キャンパスの学生も対象とした全学的取り組みへと展開します。これから迎える超高齢化社会において、健康寿命を伸ばし高齢者の生きがいを保つ「健康コミュニティ」づくりは大きな課題です。本プログラムは、その解決方法のひとつである「スポーツ」に着目し、大学アスリートのセカンドキャリアとして、スポーツを通じて得た知識や経験を社会に還元する仕組みを提案する教育開発プログラムです。スポーツに関連した研究領域の拡大に加え、東京オリンピック・パラリンピックとその後の社会形成の先頭に立つ人材育成を行います。2017 年度は、新たに各種生体データを活用したインテリジェントスポーツ確立のための研究を実施し、協賛企業と連携して取り組んでいきます。

青山キャンパス周辺地域の活性化と「青山グローバルアカデミックタウン」づくりへの貢献【大学】

本学が企画し過去 5 年間開催してきた地域連携イベント「青山銀杏フェス」では、イチョウ並木の銀杏を青山キャンパス内外の店舗等に提供して地産地消を実現するなど、好評を博してきました。また銀杏にちなんで考案した“ゆるキャラ”「銀ニャン」（着ぐるみ）がキャンパス内外の人気者となり、関連グッズも引っ張りだことなるなど、NHK の朝のニュースに取り上げられるほどの話題を呼びました。2017 年度はイベントの企画内容を精査・拡充して発信力を一層高め、キャンパス内外の交流と活性化を促し、もって「青山グローバルアカデミックタウン」づくりにも資することとします。

世界最高水準のクライシスマッピング・ボランティア拠点設立【大学】

クライシスマッピングとは、災害等が発生した際にその被害状況を把握するために、衛星画像等を用いてインターネット上に地図を作成し、現場の「今」を反映させ、その地図を活用して被災地を遠隔から支援する手法です。これは一般市民も参加できるボランティア活動で、被災地支援に大いに役立つものです。この活動の第一人者である地球社会共生学部教員を中心として、世界最高水準のクライシスマッピング拠点を本学の青山・相模原キャンパスに整備し、地域住民や地方自治体、国連や国境なき医師団等国際機関と連携して、安定的な活動の展開を図ります。また、大学生のみならず設置学校と連携して幅広い世代による活動を行います。

女子教育の歴史の検証と継承を行う組織の立ち上げ【女子短期大学】

青山学院の源流の一つである女子教育の歴史を総括し、女子短期大学卒業生をはじめとして広く女性の生涯教育を考えるとともに、エンパワメントへと継承・発展させる組織的取り組みを行います。

グローカルプログラムの実施【初等部】

夏期休暇等を利用してインターナショナルスクールの児童を受け入れ、各種イベントを通して国際交流・異文化コミュニケーションを図ります。青山学院の伝統である国際交流・国際教育を青山という立地を活かして行う、初等部ならではのグローカル（Glocal）なプログラムです。

2. 各設置学校等の連携

青山学院は、幼稚園から大学、大学院までを有する総合学園であり、青山学院への入園・入学生の多くがそのまま上級の学校に進学します。一貫校としての特性を活かした教育を行うため、各設置学校が連携して様々な取り組みを行っています。また、系属校・提携校との連携も強化していきます。

【ルーティンで実施している設置学校間の連携プログラムの例】

大学・女子短期大学	●単位互換制度
大学・高等部	●高等部生徒による大学授業の履修 ●学問入門講座 ●国際理解・留学準備プログラム
大学・中等部	●放課後の学習サポート
女子短期大学・高等部	●学問入門講座
高等部・中等部	●長期派遣留学生指導・説明会開催
初等部・幼稚園	●一緒に遊ぼう会

Ⅲ. 学院を支える基盤整備

1. キャンパス再開発

キャンパス再開発・新図書館構想に伴う調査の実施【法人・大学】

「キャンパス再開発 10 年計画」の最優先計画である大学新図書館建設に着手し、総合的アカデミック活動の場を整備します。建設にあたり、他大学図書館の動向調査や蔵書計画のための調査、新図書館のコンセプトである「学習コレクション*7」の概算、施設・設備の視察調査等を行います。

＊7）総合的なアカデミック大学図書館を実現するため学習・教育の基本的図書・雑誌等蔵書資料（電子形態の資料も含む）構築

青山学院歴史資料館開設のための調査の実施【法人】

現在進行中の『青山学院 150 年史』編纂事業の将来的な発展継承のため、学院における自校史教育・研究拠点のあるべき姿を検討し、「青山学院歴史資料館」の開設を目指した検討を進めます。具体的には、必要とされる制度・法制等の調査、国内他大学の自校史編纂・教育・研究体制ならびにその活動の成果を中心とした「史・資料」の収集・保存・展示施設の在り方について、先行事例の調査ならびに博物館・資料館の設立実務経験者等へのヒアリングによるノウハウの蓄積、各種資料収集等を行います。

中等部校舎の建て替え【中等部】

2017 年 4 月より、教科センター型教室を導入した新本校舎の使用を開始します。2017 年度は、第Ⅱ期工事開始に向けて動線確保や新しい施設運用ルールの策定等を行う予定です。

保育の設備、環境の改善【幼稚園】

保育の充実と園児の安全確保のため、老朽化した園庭遊具等の修復や新設など、環境改善を図ります。

2. 財政基盤の強化

財政基盤強化策の戦略的構築【法人】

少子化やグローバル化を巡る学校間競争がますます激化する中で、本学院が AOYAMA VISION のもとに長期にわたって発展を続けるためには、財政基盤の強化が必須となります。募金戦略強化のため、各種キャンペーン委員会の発足や中長期的財政指標改善につながるブランドロイヤリティ戦略の推進等を含む幅広い収支改善策を打ち出し実行していきます。

「青山学院 EVERGREEN 150 募金」の実施（第Ⅰ期）【法人】

2024 年の創立 150 周年に向け AOYAMA VISION の実現を財政面から支えるため、10 年間を 3 期に分け、「青山学院 EVERGREEN 150 募金」を実施しています。2016 年度に引続き、2017 年度もニューズレターの発行による広報活動に加え、渉外活動をさらに強化するほか、オンラインによる募金活動の工夫などにも注力します。

大学新図書館建築募金の開始【大学】

AOYAMA VISION 募金の一環として、「大学新図書館建築募金」の募集を開始しました。これからの青山学院に相応しい最先端の機能を備え、学生、教職員、校友が集ってアカデミックな活動を行う拠点となる図書館の早期着工を目指して準備します。AOYAMA VISION の中でも大規模な案件であるため、積極的な募金活動を展開します。

新校舎建築のための募金活動【中等部】

教育環境の整備・充実を実現するため、エバーグリーン募金推進本部や緑窓会と協力しながら、中等部が中心となり新校舎建築に特化した募金活動を行っています。2016 年 10 月末時点で 5 千万円を超えるご寄付をいただき、新礼拝堂に設置するパイプオルガンやステンドグラス等の購入費に充てます。今後もチャリティコンサートの開催や中等部ホームページ等を通じて、情報発信・共有をしながら募金活動を継続していきます。

3. 組織・運営体制の充実

（1）広報の強化

広報戦略の再構築【法人】

2017 年度は、学院・各設置学校全てのウェブサイトリニューアルを実施します。レスポンシブウェブデザインを採用し、スマートフォンやタブレットなど幅広いデバイスのいずれに対しても最適化し、読みやすくナビゲーションしやすいサイトの構成になります。また、旬な情報を分かりやすくタイムリーに発信するとともに、外国語サイトの充実も図ります。

大学広報体制の形成【大学】

広報業務を入試広報と大学広報に分割し、ターゲットを絞ったコミュニケーション活動を展開することで、各ステークホルダーとのリレーション強化と業務の効率化を図ります。また、学院ウェブサイトリニューアルに合わせて、大学のホームページでも外国語サイトを充実させていきます。

インターネット TV（青学 TV(仮称)）の開設【大学】

青山学院アスタジオに NHK のスタジオを招致（2009 年、社学連携研究センター）するなど、本学はメディアとの連携やその活用において先端を走ってきました。近年、注目を集めているインターネット TV においても、本学はクリエイティブな番組を制作するのに適した立地・環境と人材・ネットワークを有しており、本学関係者はもちろん、社会一般にも大きな訴求力を持ち得ます。こうした持てる魅力を存分に発揮する形で、青学版インターネット TV（仮称・青学 TV）を開設します。番組コンテンツとして「本学と NHK との共同開発による教育教材コンテンツ配信」「学内外イベント現場のライブ中継」「学内外トップクリエイターとのコラボ」「学内外トップランナーのドキュメンタリー」などを想定し、2017 年度は専用ウェブサイトの構築、番組の企画・制作・収録・配信といった一連の流れを円滑に進めて行くための体制づくりなど、実験的な取り組みを行います。

（2）職員の能力開発支援の推進

学院の個性を発揮することのできるサーバント・リーダーとしての職員の育成【法人】

AOYAMA VISION 実現のためには、まずは職員自身がサーバント・リーダーであることが求められます。2016 年度は新企画として「サーバント・リーダー育成研修プログラム」を実施し、造詣が深い教員による講演や学院功労者の紹介を通して、自身のサーバント・リーダー像を考える機会を設けました。これを新人研修、OJT 研修、メンター・メンティ研修等既存の研修とあわせて今後も継続し、各種研修をとおして、本学院の果たすべき社会的な役割を理解するとともに、青山学院らしい人材輩出の一翼を担う職員の育成を行っていきます。

学校の国際化を支える職員のグローバル人材の育成・職員の英語力向上【法人・大学】

社会の急速なグローバル化に学院が対応するためには、職員のグローバル化が必須です。昨年に続いて 4 回目となる海外大学への出向研修や、2 回目となる海外大学職員の出向受け入れを実施します。また、新たに「青山グローバル塾」を新設して、グローバル戦略策定のために必要な知識やスキル習得のための講演会を開催予定です。さらに、大学を中心とした職員の英語力向上の取り組みとして、タブレット型情報端末を活用したオンラインによる TOEIC 試験対策や英会話の講座受講、短期の語学留学といった各種プログラムを実施し、実践的英語力を身に付けた職員の育成を行います。

Ⅳ．その他

『青山学院 150 年史』編纂【学院】

年史の発行は、過去に学び現状を認識することで未来の構築につなげるとともに、学院のアイデンティティーを確認し、先人たちの努力を顕彰する意味でも重要です。創立 150 周年での発行に向け、『青山学院 150 年史』の編纂を進めています。2017 年度は、『青山学院 150 年史 資料編第 1 巻』刊行の準備と『高木壬太郎*8 史料目録（仮称）』の発行を行います。また学院関係者へのヒアリングも引き続き実施します。

＊8）青山学院第 4 代院長、明治時代から大正時代にかけて活動したメソジスト派の牧師、教育者。

『青山学院女子短期大学六十五年史資料編』の刊行【女子短期大学】

総合文化研究所創立 25 周年の記念事業として昨年刊行した「通史編」「文集編」に続き、『青山学院女子短期大学六十五年史資料編』を刊行し、65 年史編纂事業を完結します。一連の編纂作業で集約した資料は、後世の年史編纂の基盤となる貴重な資料として保管することとなります。

宗教改革 500 年記念事業【学院】

2017 年は、宗教改革 500 年にあたります。青山学院は、米国のメソジスト監督教会（プロテスタント）から派遣された宣教師によって創設された 3 つの学校を源流とした学園です。この記念すべき年に、青山学院らしいキリスト教に係わる取り組みを企画していきます。

初等部創立 80 周年、中等部創立 70 周年を記念した特別展示を開催【学院】

初等部創立 80 周年、中等部創立 70 周年を記念して、資料センターにて特別展示を開催します。創立時の背景や教育の歩みを辿ることで、青山学院関係者のより一層の愛校心を高め、今後の各学校が目指す教育の一助となることを目的としています。

初等部創立 80 周年記念事業の実施【初等部】

初等部は今年で創立 80 周年を迎えます。その記念事業として記念式典や記念行事を開催するとともに、初等部に係わりのある方々のインタビュー記事や初等部の変遷を辿る貴重な資料・写真等を収録した『青山学院初等部 80 年史』を発行します。また、学校行事である運動会やアドヴェントコンサート等も冠行事として実施します。これからも、先人たちが拓いた道を未来に繋げ、「5 つのおやくそく」に象徴される創立当初からのキリスト教信仰に基づく教育を行っていきます。

〈補足事項〉

P.4 から P.16 に掲載されている法人執行部および本部事務部署が行う事業計画については、「教育・研究・学術」に係る計画を【学院】、「経営・管理」に係る計画を【法人】と表記しています。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院　2017年度事業計画書

（問合わせ先）本部 総合企画部 03(3409)6384

※学院HPからもPDF形式にてご覧いただけます

ホーム ＞ 青山学院の基本情報 ＞ 青山学院のデータ ＞ 財務状況 事業計画書・事業報告書

http://www.aoyamagakuin.jp/

2017年3月23日 理事会承認　(2017年4月発行)